

# Editor's Choice

今月の編集部オススメのソフト&ハード

今月のオススメは、ユニデン株式会社が作ったユニークなDSU内蔵のターミナルアダプター「UTA128DSU」、いよいよ発売したマイクロソフトのサーバー用OS「ウィンドウズNT4.0」、低価格のダイヤルアップルーターの草分けであるLBRシリーズが機能を充実させて新登場した「LBR-128」、ユニークなアナログポート付きのDSU「Inter Socket」、画像のセキュリティソフト「Graphic man」だ。

## 今月のラインナップ

擬似コールウェーティングで呼び出し音が鳴るTA

### UTA128 DSU

[発売元] ユニデン株式会社

より使いやすくなったマイクロソフトのネットワークOS

### ウィンドウズ NT 4.0

[発売元] マイクロソフト株式会社

GUIで手軽に設定できるダイヤルアップルーター

### LBR-128

[発売元] 株式会社メルコ

アナログポートが付いたDSU

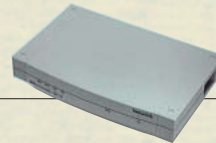
### InterSocket

[発売元] 日新電機株式会社

画像を特定の人とやりとりできる

### Graphic man

[発売元] 株式会社ナッシュ



## このコーナーの見方



付録のCD-ROMに収録



市販の  
ハードウェア製品



市販の  
ソフトウェア製品



シェアウェアの  
ソフトウェア



フリーウェアの  
ソフトウェア



ウィンドウズ95用



ウィンドウズ3.1用



ウィンドウズNT用



OS/2用



マッキントッシュ用



UNIX用



動作環境



発売元



電話番号



価格



関連情報



バージョン



作者/開発元



入手先

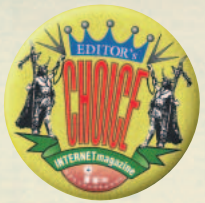


付属品



ファイルサイズ/  
最速転送時間

[注]「最速転送時間」とは、28800bpsのモデムを使って圧縮なしでファイルを転送した際の、理論上で最速の転送時間を意味します。ダウンロードするときの目安としてください。ファイルサイズ(バイト)×10÷28800で計算しています。端数は切り上げています。



擬似コールウェイトで呼び出し音が鳴るTA

ユーティエー128ディーエスユー

# UTA128DSU



49,800円



ユニデン株式会社

## ここがスゴイ!

- ① 擬似コールウェイトで呼び出し音が鳴る
- ② DSU内蔵TAとしての機能が充実

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



ユニデンが新発売したTA「UTA128DSU」はDSU内蔵の多機能TAだ。DSU内蔵TAで便利な極性反転機能を備え、アナログポートの機能も豊富で使い勝手が良い。また、擬似コールウェイトで待ち時間に保留音を鳴らすことができる初めてのTAでもある。価格も49,800円とDSU内蔵TAとしては低価格で魅力的な新製品だ。「Net Highway」という愛称が付けられている。

### ▶ 擬似コールウェイトで保留音が鳴る

ISDNにはアナログの電話と同様に、キャッチホンの申し込みができるが、これを申し込むと月額400円が余分にかかる。これをNTTへの申し込みをせずに、TAの機能で実現してしまうのが擬似コールウェイトだ。擬似コールウェイト機能は現在発売されている主なTAのほとんどで使えるが、ふつうのキャッチホンとは違い、保留音が鳴るものがなかった。UTA128DSUでは保留音が鳴る擬似コールウェイトを実現している。

この機能はもともと設定された音楽をかけることもできるし、自分で編集した曲をかけることもできる。

### ▶ TAとしての基本機能が充実

最近ではDSUが内蔵されたTAがかなり多く発売されている。DSU内蔵TAのメリットは、すっきりとした配線ができること、DSUを別に買わなくても済むので煩雑さが少ないことなどが挙げられる。要するにISDNの導入がより手軽になるのだ。

ただし、モデム感覚で買ってきたはいいが、問題が起る可能性がある。ISDNはアナログと違い、配線において極性が反転している場合がある。極性が違う場合はモジュラーケーブルで極性が反転しているものを使うか、NTTに頼んで極性反転の工事をしてもらうしかない。

そんなときに便利なのが「極性反転スイッチ」だ。これを使えば、極性が反転したケーブルを用意する必要もなく、NTTに工事を頼む必要もない。スイッチを「REVERSE」の位置に合わせればOKだ。これは従来、日本電気株式会社(NEC)のAtermシリーズにしかなかった機能だ。また、極性判断チェッカーが付いているので、実際に極性が反転しているかどうかを判別できるようにもなっている。DSU内蔵TAとしての機能は充実しているといえるだろう。

アナログポートの機能としては前述した擬似コール

ウェイト機能のほかにグローバル着信機能、内線通話機能など、基本的な機能は持っている。

### ▶ ほかのTAはつなげない

このように多機能なUTA128DSUだが、気になる点もある。他のTAをつなげられないという点だ。この点についてはNECのAtermシリーズのような「S点ユニット」がないので、内蔵のDSUを利用して別のTAをつなぐことができないのだ。この点は実に惜しい。また、停電時バックアップのための電池駆動ができない点も気になった。

## 試用レポート

### ▶ セットアップのしかたが少し違う

最近のTAはほとんどがATコマンドで制御できるようになっており、設定はウィンドウズ95のモデムウィザードでINFファイルを組み込むようになっていく。UTA128DSUの場合もモデムウィザードを使ってセットアップするのだが、INFファイルを使ってのセットアップとは少しやり方が違う。添付のフロッピーディスクの「SETUP.EXE」を起動してセットアッププログラムをインストールすると、モデムウィザードのリストにUTA128DSUが自動的に登録されるのだ。セットアップのときにはこれを選んで「OK」ボタンを押すだけでいい。INFファイルによるセットアップよりも簡単だ。

### ▶ 設定ソフトウェアは便利

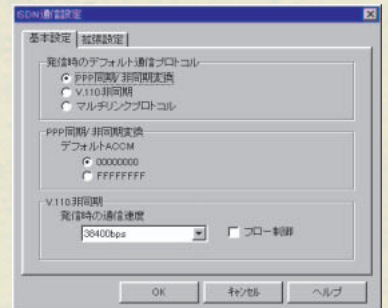
フロッピーディスクのセットアッププログラムを起動させると、同時に設定ソフトウェアもインストールされる。このソフトウェアはメニュー形式でアナログポートの設定などができるのでとても便利だ。S点ユニットがないこと、そして乾電池駆動できないこと、これら2点が気になるが、保留音が鳴る初めてのTAとして評価したい。価格も、DSU内蔵TAとしては低価格だと言える。

(編集部 kataoka@impress.co.jp)



① 薄い筐体で置き場所に困らない。前面には5つのインジケーターがある。

② 背面。上からアース、アナログポート1、2、極性反転スイッチ、ISDNポート、RS232Cポート、電源スイッチ、ACアダプター。



③ 設定ソフトウェアの画面。ウィンドウズ95の「プロパティ」に似たインターフェイスだ。

## UTA128DSU



ユニデン株式会社



49,800円



0120-478383



ACアダプター、RS232Cケーブル、変換ケーブル、ISDNケーブル



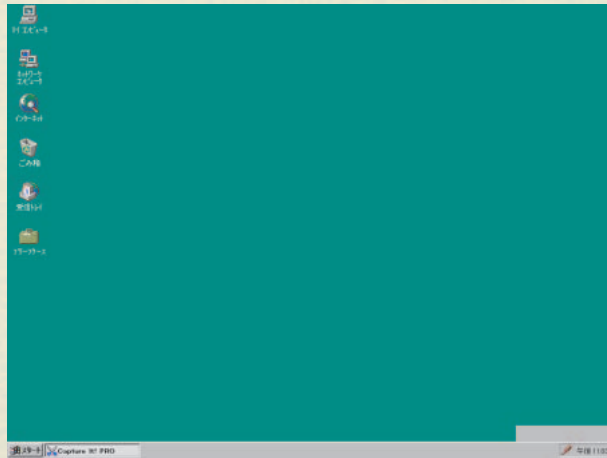
より使いやすくなったマイクロソフトのネットワークOS

ウィンドウズNT4.0

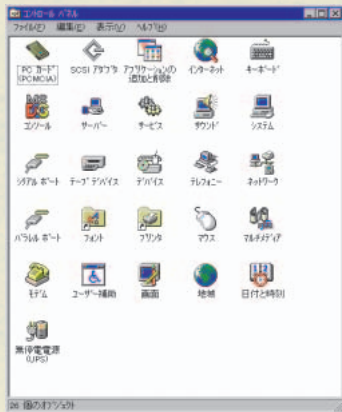
# Windows NT 4.0

¥ 165,000円(サーバー版)  
43,000円(ワークステーション版)

マイクロソフト株式会社



① 見た目はウィンドウズ95と変わらないし。



② もっとも「95」と違うのがコントロールパネル。

1996年12月、ウィンドウズNT4.0日本語版(以下、NT4.0と表記)が発売された。1年前のウィンドウズ95(以下、95と表記)発売時とは違って、派手なお祭り騒ぎはいっさいなし。そこに、95とNT4.0の商品特性の違いが象徴されている。すなわち95がパーソナルユーザー対象のOSであるのに対して、NT4.0はビジネスユーザーが対象だ。それもスタンドアロンではなく、LANが構築された環境での使用が前提だ。

▶ ウィンドウズ95ライクなユーザーインターフェイス  
ネットワークOSであるNT4.0には、サーバーマシン用のNT4.0サーバーとクライアントマシン用のNT4.0ワークステーションの2種類のシステムが用意されている。NT4.0サーバーは、NT4.0ワークステーションと上位互換性があり、ネットワーク管理機能が大幅に強化されているのが特徴だ。

NT4.0を起動すると、95とそっくりなユーザーインターフェイスに驚かされる。デスクトップ左上に並んだアイコンやウィンドウ下部のタスクバーなど、何も言われなければ95と見間違えてしまいそうだ。95でないことに気づくのは、スタートボタンをクリックしたときだろう。ポップアップメニューの左側に「Windows NT」と表示されるからだ。日本語入力システムも違う。95では昨年11月にアップグレード版が発売された「IME97」だ。

95と統一されたユーザーインターフェイスは、NT4.0をとっつきやすきただけでなく、実際に操作性もいい。LANが普及し、インターネットが注目されるなか、スタンドアロン環境並みの手軽さでネットワークにアクセスできるNT4.0は、さらにイントラネットの普及にはずみをつけるきっかけになる可能性大だ。残念なのがプラグ・アンド・プレイに対応していないこと。も

おすすめ度  
[ユニークさ]  
[コストパフォーマンス]  
[使いやすさ]  
[期待度]  
[総合]

っとも、NT4.0 CD-ROMのドライバーライブラリーに含まれているPNPISAを使えば、プラグ・アンド・プレイ対応の装置を自動的に検出、インストールすることができるようになる。ただし、NT4.0はプラグ・アンド・プレイをサポートしていないため、このドライバーはユーザーの責任で使わなければならない。

### ▶ 標的はインターネット&イントラネット

NT4.0は、TCP/IPのほかNetBEUIとIPX/SPX互換のNWLinkプロトコルに対応すると同時に、Netwareのクライアントとしても機能する。また、NT4.0サーバーは、AppleTalkサーバーの機能も持っているから、マッキントッシュとファイルやプリンターを共有することもできる。

なかでも強化されているのがインターネットへの対応だ。NT4.0のインストール時に、インターネットエクスプローラ3.0日本語版(以下、IE3.0と略)とインターネット・メール&ニュースもインストールされるのだ。それだけではない。NT4.0サーバーではインターネット・インフォメーション・サーバー(IIS)2.0が、NT4.0ワークステーションではWebサーバー「ピア・ウェブ・サービス」が、それぞれ同時にインストールされるのだ。インストールと同時に、インターネットで情報の発信までできるOSなどほかにはない。ピア・ウェブ・サービスはコネクションが10に限定されているが、個人的に使用したり、社内LANで情報を公開したりするには十分だろう。

インデックスサーバーを使えば、ウェブコンテンツの検索もできる。インデックスサーバーは、自動作成した索引をもとにユーザーのリクエストでウェブコンテンツを検索するシステムで、IIS2.0と組み合わせる。NT4.0には含まれていないが、マイクロソフトのホームページから無料でダウンロードできる。インデックスサーバーの特徴は、HTMLファイルだけでなく、ワードやエクセルのファイルからも索引を作成できることだ。これは、イントラネットユーザーを意識したものだだろう。

ワードやエクセルで作成した文書を、IIS2.0で公開し、IEで閲覧する。そして、これら一連のコンピュータは95やNT4.0でコントロールする。マイクロソフトが、インターネットやイントラネットに力を入れる理由がよくわかる。

特にイントラネットで威力を発揮しそうな新機能に「DCOM(分散コンポーネントオブジェクトモデル)が



① ウィザードを使ってネットワークの設定もできる。

ある。DCOMはOLEやActiveXと同じくコンポーネントテクノロジーの1つで、ネットワーク上に分散しているプログラムやデータなどのオブジェクトが互いに通信しながら、まるで1つのソフトウェアのように動作する技術だ。もっとも具体的なアプリケーションがないので、まだ実体は見えにくい……。

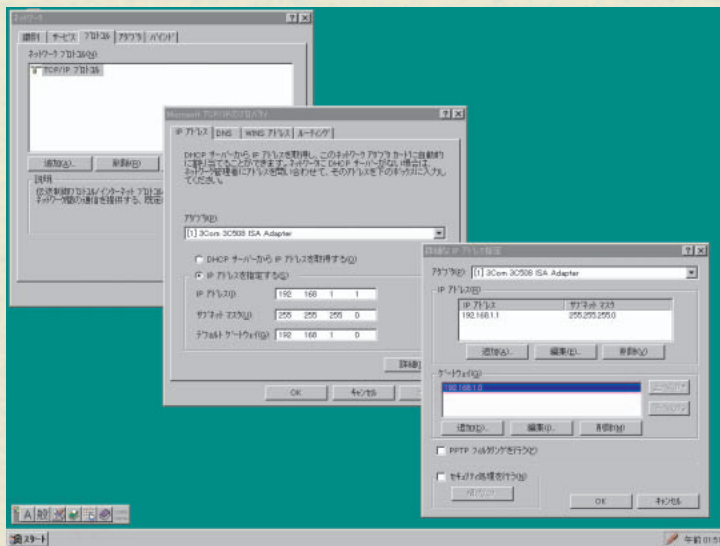
▶ インターネットを私設ネットワークに変えるPPTP

NTは、以前のバージョンから「RAS（リモートアクセスサービス）」と呼ばれるリモートアクセス機能を持っていた。NT4.0では、このRASが強化されている。クライアント、サーバーともに、マルチリンクPPPに対応したのだ。ISDNの普及でマルチリンクPPP対応のTAが増えているが、NT4.0のマルチリンクは、ISDNだけでなくアナログ電話回線にも適用できる。例えば2本のアナログ回線にそれぞれ33.6Kbpsモデムをつなげば、約67Kbpsの速度で通信できることになる。また、INS64を2回線使えば256Kbpsだ。

しかし従来のRASは、アクセスするネットワークが速くになればあるほど通信費がかさむ。一時的に利用するならともかく、日常的に使うのはつらい。そこで、手軽に利用できるようになったインターネット経由でリモートアクセスする技術が、NT4.0に加わった。PPTP（Point-to-Point Tunneling Protocol）だ。この技術を使えば、インターネットを使って本社と支社や出張所を結ぶ仮想的なプライベートネットワークを構築することもできる。また海外出張時に、国際電話の通信料金を気にせずに会社のコンピュータにアクセスすることもできる（352ページ参照）。

▶ ウィザードを使ってサーバー管理

インターネットでは、通信相手のコンピュータを指定するためにIPアドレスが使われる。しかし、数字で表記されたIPアドレスは人間にとっては非常にわかりづらい。アルファベットで表記されたドメイン名が使われる。だが、ドメイン名はコンピュータには通用しない。そこで、ドメイン名からIPアドレスを割り出す仕組みが必要になる。これがDNS（ドメイン・ネーム・サービス）だ。前バージョンのNTまでは、このDNSとWindows独自のWINS（Windows・インターネット・ネーム・サービス）の2つの方法で、IPアドレスとドメイン名の対応を管理していた。NT4.0は2つの方法を統合し、専用のDNSサーバーで管理を行うようになっている。



② ネットワークの設定画面。「95」よりも分かりやすく整理されている。

95同様、NT4.0にも従来のファイルマネージャに代わるエクスプローラが標準添付されている。NT4.0のエクスプローラでは、共有ファイルやフォルダーの指定に、「¥¥magazine.impress.co.jp¥¥pub」のようにドメイン名を使うことができるようになった。これも、WINSが統合された新しいDNSの特徴だ。

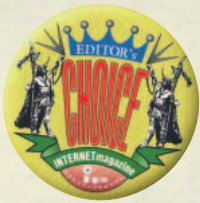
95では、質問に答えていくだけでハードウェアやソフトウェアのインストールや設定ができる。こうした方式をウィザードという。ウィザードは、インターフェイスと同様、95の操作を親しみやすいものに変えた重要な要素といえるだろう。NT4.0にも、ウィザードが大幅に採用されている。しかも、これまではある程度専門知識がないと不可能だったサーバー管理まで、ウィザードでできるのだ。95でもおなじみのアプリケーションの追加と削除、プリンターやモデムのインストールをはじめ、ユーザーアカウントの追加、ユーザーグループ管理、ファイルとフォルダーのアクセス管理、ネットワーククライアントワークステーションの管理は、「管理ウィザード」として1つのアプリケーションにまとめられ一括管理できるようになっている。

はたしてネットワーク管理をする人間に、ウィザードが必要なのか？ そんな疑問もないではないが、裏を返せばそれほど知識がなくてもサーバー管理ができるということでもある。コンピュータネットワークのさらなる普及のためには、操作の簡易なネットワークOSが必要なのは間違いない。そういった意味でも、NT4.0は注目すべきOSといえそうだ。

（藪 暁彦）

Windows NT 4.0

- マイクロソフト株式会社
- 165,000円（サーバー版）
- 43,000円（ワークステーション版）
- 4.0
- 03-5454-2300
- <http://www.microsoft.co.jp/products/index.htm>



98,000円



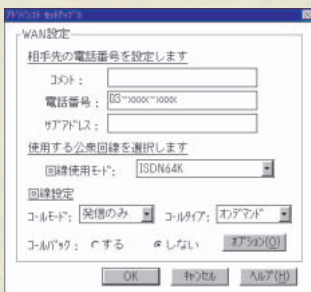
株式会社メルコ



①筐体はLBR-64と同じ。同社のハブに重ねられるようになっている。



②背面。左からACアダプター、LANポート、ISDNポート、RS232Cポート。電源スイッチは横にある。



③設定ソフトウェアの画面。GUIで手軽に設定できる。

## GUIで手軽に設定できるルーター

エルピーアール128

# LBR-128

### ここがスゴイ!

- ① ウィンドウズ95上でルーターの設定ができる
- ② 10万円を切る低価格

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]

10万円を切る低価格で96年春に話題になったメルコのダイヤルアップルーター「LBR-64」の後継機種が登場した。新しく登場した「LBR-128」は、MPに対応して128Kbpsが可能になったほか、ウィンドウズ95上からセットアップできるようになった。価格は据え置き98,000円で、魅力的な価格のままになっているのがうれしい。

### ▶ GUIでルーターの設定ができる

LBR-128でもっとも画期的なのは、GUIで設定ができるように、専用のソフトウェアが付属していることだ。今までのダイヤルアップルーターでは、ウィンドウズ95の「ハイパーエディット」やマッキントッシュの「JTERM」などの通信ソフトウェアを使ってコマンドラインを入力したり、味気のないメニュー画面で使いにくいインターフェイスで設定しなければならなかった。ところがLBR-128では、パソコン上から設定できるようになっている。インターネットの個人ユーザーは、現在は端末型のユーザーがほとんどだが、最近ではパソコンを複数台持っているユーザーも多く、ネットワーク型ダイヤルアップへの関心も高まっている。端末型のユーザーがネットワーク型に切り替える際に、もっとも障壁となるのはダイヤルアップルーターの設定だろう。

### ▶ 128Kbpsに対応

LBR-64は確かに安価だが、他のダイヤルアップルーターが128Kbpsでの通信に対応している中、やはり64Kbpsまでしか対応していないのは買うのに抵抗がある。LBR-128はMP（PPPマルチリンクプロトコル）に対応し、128Kbpsで接続できるようになっているので大丈夫だ。

### ▶ アナログポート付きモデルもある

LBR-64は安価なので個人がダイヤルアップルーターを選ぶ場合には選択肢の1つに入る。しかし、個人で

手軽に使うには、アナログポートがないのが少し残念だった。ターミナルアダプターとして電話をつなげられるようにすれば、個人ユーザーにはもっと使いやすいだろう。このような要望に応じて、LBR-128にはアナログポート付きモデルも用意されている。価格は102,000円と少々高くなってしまいが、それでもほかのアナログポート付きルーターと比べれば安い。

## 試用レポート

### ▶ リバースケーブルを用意しなくてもOK

今回はアナログポートが付かないタイプをお借りした。多くのダイヤルアップルーターはtelnetでパソコンから設定できるようになっているが、最初にルーター自体にIPアドレスを設定するために、RS232Cのリバースケーブルを使わなければならない。LBR-128の場合、出荷時に「1.1.1.1」のIPアドレスが設定されているので、最初からパソコンを使って設定できる。RS232Cのリバースケーブルはあまり使うことがないものなので、初心者にはうれしい配慮だ。ダイヤルアップルーターにネットワーク型ダイヤルアップ接続を申し込んだときにももらったIPアドレスを割り振ったら、後はふつどおりにパソコンから設定できる。

### ▶ GUIでの設定は非常に簡単

ツールでは「簡単接続セットアップ」と「アドバンスセットアップ」がある。ネットワーク型ダイヤルアップ接続をするときには、アドバンスセットアップを選ぶ。ここでは相手先の電話番号やルーターに割り振るIPアドレス、ログインIDやパスワード、接続方式など、ネットワーク型ダイヤルアップをするための各情報を入力する。これらはtelnetを使った味気のない設定画面とは違い、OKボタンを押しながら設定できるので便利だ。

以上のように、LBR-128は初心者が設定することを意識して作られており、LAN型ダイヤルアップに初めて挑戦する人には適したダイヤルアップルーターだと言える。ただ、各プロバイダーのダイヤルアップルーターの推奨機種を見ると、LBRシリーズはあまりサポートされていない状況だ。各プロバイダーの推奨機種として普及すれば、さらに安心して買える製品となるだろう。

(編集部)

## LBR-128



株式会社メルコ



98,000円



052-619-1825



ISDNケーブル



http://www.melcoinc.co.jp/product/inter.html



## アナログポートが付いたDSU

インターソケット

# Inter Socket

### ここがスゴイ!

- ① DSUにアナログポートが付いて配線がやりやすくなった
- ② グローバル着信設定など、アナログポートの機能が充実

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



35,800円



日新電機株式会社



ISDNを使うには、ターミナルアダプター(TA)のほかに、DSU(終端抵抗)という機器が必要である。DSUにはNTTが発売するものももっとも有名だが、ほかにも何社かが発売している。しかし、これまでアナログポートが付いたDSUはなかった。日新電機が新発売したDSU「Inter Socket」(インターソケット)にはアナログポートが付いている。現在発売されているTAにはほとんどアナログポートが付いているが、PCカード型TAやISDNボードなどを使う際には便利だ。配線が自由にできるという点にも注目したい。

### ▶ アナログポート付きのDSU

Inter Socketはあくまでも基本はDSUであり、ターミナルアダプターとしての機能は持たない。パソコンにつないでインターネットにつなぐには、ほかにTAが必要だ。従来はDSUと言えばたんにTAと壁のコネクターの間に入れる機器であり、設定する必要もない。要求されるのは確実につながることと価格の安さだけであり、周辺機器としては地味な存在であったのは言うまでもない。そのDSUに注目したのがこの製品である。アナログポートを付けたことにより、従来、ISDNを導入する際の問題を解決する可能性を秘めている。

ISDNで第一に問題になるのがDSUやTAなどの配置である。アナログ電話の場合、壁のコネクターに電話からのモジュラーケーブルをつなぐだけなので、壁から離れたところに置きたければ、モジュラーケーブルを長くすればよいだけの話であった。しかし、ISDNの場合、DSUとTAという機器を壁と電話の間に介さなければならぬ。さらに、TAはパソコンとつながっていないければならぬ器具である。RS232Cケーブルを長くするよりはモジュラーケーブルのほうがかさばらないから、長くするならモジュラーケーブルの方を選ぶだろう。

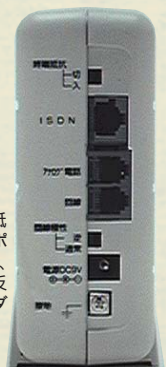
ところが、パソコンと電話を一緒に部屋で使いたいと思う人はどれだけいるだろうか。パソコンは2階の書斎に、電話は1階のリビングに、という人は結構多いのではないだろうか。

このような場合に便利なのがInter Socketだ。これなら1階のモジュラージャックがある壁の側に電話をつないでInter Socketを置き、そこからISDNケーブルを引いて2階のTAにつなげられる。

また、ISDNボードやPCカード型TAを使っている人にもおすすめだ。とくにPCカード型TAではアナログポートがないので家ではふつうの外付け型TAを使い、外で使うためにもう1つPCカード型TAを買い足せば、2



① 筐体はNTTのDSUよりわずかに小さい。縦置きができるので便利だ。

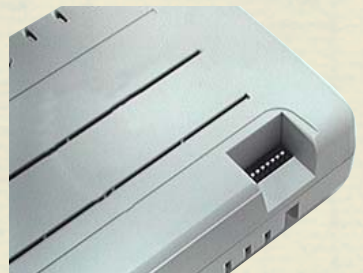


② 背面。上から終端抵抗スイッチ、ISDNポート、アナログポート、回線ポート、極性反転スイッチ、ACアダプター、アース。

度手間になってしまうが、Inter Socketならそんなことはない。

### ▶ アナログポートは1つ

Inter Socketのアナログポートは1つしかない。この商品のウリがレイアウトが自由になることであれば、やはりアナログポートは多いに越したことはない。せめて2ポートは欲しかった。なお、このアナログポートにはグローバル着信とダイヤルインの番号登録ができる。



③ 下部にディップスイッチがある。縦置きにしたときにちょうど外からは見えなくなっている。

## 試用レポート

### ▶ 設定はディップスイッチで行う

外付けのTAを使う場合、アナログポートを設定するにはパソコンから設定ソフトやATコマンドを使って設定できるが、Inter Socketはパソコンにつなぐ器具ではない。設定はパソコンではなく、ディップスイッチという小さなレバーを上げたり下げたりして設定できるようになっている。使ってみたが、この設定は初心者の試用も考慮してもっと親しみやすいインターフェイスにしてほしいと思う。

PCカード型TAを差して接続を試したところ、とくに問題もなく接続に成功した。DSUとしての機能は設定する部分がないのでとくに迷うところもないだろう。今までレイアウトの点で制約を感じていた人にはぜひおすすめだ。ただ、価格はNTTのDSUが23,800円であることに比べると少々高めである。アナログポート付きであることを考慮しても3万円は切ってほしい。

(編集部)

## Inter Socket



日新電機株式会社



35,800円



03-5821-5986



ACアダプター、モジュラーケーブル



http://www.nissin.co.jp/What/what96911.html



画像を特定のひとやりとりできる

グラフィックマン

# Graphic man

128,000円(プロフェッショナル版)  
9,800円(エコノミー版)

株式会社ナッシュ



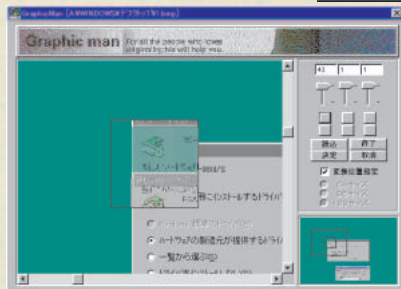
ここがスゴイ!

- ① 画像を不特定多数の人に見られないように加工できる
- ② 特定の人に作成したキーソフトを配布できる

おすすめ度

[ユニークさ]  
[コストパフォーマンス]  
[使いやすさ]  
[期待度]  
[総合]

加工したところ、加工する範囲は3種類から選べる。



① プロフェッショナル版では加工の度合いを調節できる。元の画像が理想できる程度にとどめることも可能だ。

株式会社ナッシュが発売した「Graphic man」は不特定多数の人に画像を見られないように加工するためのソフトウェアだ。加工した画像はキーソフトがなければ正しい状態で見ることができない。インターネット上で画像を特定のひとやり取りしたいが、ほかの人には見られたくないという場合に有効なソフトだ。インターネットの普及により登場した、新しいタイプのソフトだと言える。

### ▶ 画像用のセキュリティソフト

Graphic manの使い方は実に簡単だ。起動して画像を読み込み、加工したい部分を指定して加工するボタンを押す。その後「決定」ボタンを押せば加工した画像が生成され、同時に画像を元に戻すためのキーソフトが生成される。キーソフトはフリーソフトウェアで、誰に配布してもいい。要するに、見せたい画像を特定の人に限定できるのだ。

インターネット上では数多くの画像リソースが公開されているが、そのぶん画像がコピーされたり模倣されたりすることも多い。そのような状況でGraphic manを使えば、画像を見せる相手を特定できるというわけだ。会員制の画像データベースを作ったり、またメールで画像をやり取りしたりするためのセキュリティソフトとして使える。

### ▶ プロフェッショナル版とエコノミー版がある

Graphic manにはプロフェッショナル版とエコノミー版の2つのパッケージがある。エコノミー版は9,800円、プロフェッショナル版は128,000円となっている。プロフェッショナル版は加工パターンをユーザーが独自に指定できるし、加工する部分を複数特定できるが、

エコノミー版は決まったパターンでの加工しかできず、また一部分しか加工できない。価格からいうとプロフェッショナル版は個人では手を出しづらい価格なので、手軽に使いたいユーザーはエコノミー版を選ぶことになるだろうが、エコノミー版は画像の一部しか加工できないので、解像度の高い画像ではあまり意味がない場合もあるかもしれない。画像全体を加工したいというユーザーもいるだろうから、全体を加工するモードも作ってほしかった。同じことはプロフェッショナル版にも言える。解像度の高い画像を加工する場合、わざわざ何回にも分けて加工するのではあまりにも非効率すぎる。やはり全画面の加工モードを作ってほしかった。

### ▶ サポートするのはBMPとPICT

サポートするのはウィンドウズ版がBMP、マッキントッシュ版がPICTである。このファイル形式も選択肢が少ないと言わざるを得ない。せっかくインターネットを意識したソフトウェアなのだから、WWWサイトでよく使われるGIF形式やJPEG形式にも対応してほしい。また、キーソフト自体もウィンドウズ用、マッキントッシュ用の両ソフトがそれぞれのプラットフォームでやり取りできるようにすればもっと便利になると思う。

### ▶ 加工はさまざまなパターンが選べる

プロフェッショナルの画像加工では加工が自由にできる。加工のパターンは大きく3つに分かれており、加工の度合いをそれぞれ500段階に分けられる。この3パターンを組み合わせて、元の画像を連想させるものから、完全に訳が分からないようにしてしまうものまでさまざまだ。

### ▶ 限定された状況でしか使えないが将来に期待

このようにGraphic manは現状ではさまざまな制約があり、WWWサイトなどにおける画像セキュリティソフトとしてはまだまだ未成熟と言える。個人が画像情報を気軽に提供できるインターネットでのさまざまなシチュエーションに対応するためにはまだ改良の余地がありそうだ。ただ、「セキュリティ」というと大企業が使うような大袈裟なイメージがあるが、これを個人のレベルで使える価格にしたことに大変魅力がある。今後のさらなるバージョンアップを期待したい。なお、同社ではテキストにセキュリティをかけるための「Text man」も発売予定だという。こちらにも期待したい。

(編集部)

## Graphic man



株式会社ナッシュ  
128,000円(プロフェッショナル版)  
12,800円(エコノミー版)



028-656-7920



http://www.big.or.jp/gm



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)